

**第6回はりまや橋周辺から高知城までの東西軸エリア活性化プランフォローアップ委員会  
議事概要**

日時： 平成27年10月23日（金）14:30～16:00

場所： 高知共済会館 3階「桜」

出席者： はりまや橋周辺から高知城までの東西軸エリア活性化プランフォローアップ委員会委員

委員長 青木 章泰

副委員長 広末 幸彦

委員 古谷 純代

委員 長谷川 末子

委員 早川 賢治

委員 松田 誠祐

高知県

総務部副部長 北村 強

政策企画課長 竹崎 恵彦 外

高知市

商工観光部長 中澤 慎二

商工観光部参事商工振興課長事務取扱 狩場 信壽 外

1 開会

2 議事

「東西軸エリア活性化プラン」と「高知市中心市街地活性化基本計画」の一本化について

【資料3～6】 県政策企画課説明

【資料7～9】 市商工振興課説明

【資料10】 県政策企画課説明

意見なし。一本化案について承認された。

3 報告事項

前回のフォローアップ委員会以降の取り組み状況について

【資料11】 県政策企画課説明

**意見交換**

（委員）

外国人の方に高知ならではの魅力をどう伝えていくのかがこれから大切なこと。東京や京都とはやり方が違ってあたりまえで、同じことをやっても太刀打ちできない。どうやって高知の魅力を知って来てもらえるか、各種計画の中に明確にしてもらえると商店街としてもやっていきやすい。

例えば、よさこい祭りといったものをもっと海外にも知らせていき、海外のファンに来てもらうとか、食の部分でもっと海外へ向けてアピールを強めて、地元ならではの魅力を伝え、高知に来てもらえるきっかけを作るといった取り組みを、既に行っていると思うが、もっと明確にした方がよい。実際に「これは京都の物ですか？」といった質問をするようなお客様がまだ多く、高知ならではのところにはいけていない。

最終的には帰る直前に寄った所で買い物をされるそうで、途中で買い物をしてもらうのは難しい。食やよさこいなど、国内の方に来てもらえている理由の中に、いかに高知を目指して来てもらえるかというヒントがあったりする。

お客様のアンケートやニーズのデータを取って、こういうところに力を入れたらいいですよと、例えば銀聯（ぎんれん）カードの使用率など、商店街に情報提供していただければ、それに対応してやっていこうと思っている。商業的、販売的にどうしていくかのヒントになるようなデータをいただけると助かる。

（委員）

銀聯カードは、中国人のお客様には当然（使えるかと）言われる。高知の魅力ある商品、高知でしか買えない商品があれば買うと思うし、それを買う時には皆さんカードを使いたいと思うので、銀聯カードの導入は必要と思う。

先日テレビで、海外から来たお客様は Facebook ですぐに情報をアップし、リアルタイムで本国にいる友達が行ってみたいとなり、これが一番のコマーシャルだと言っていた。魅力のあるものがあれば、どんな所からでも来たいだろう。高知でしか手に入れられない魅力のあるものを発信しないといけない。

<事務局>

10月2日の外国客船の寄港の際にアンケートを実施したので、概略を説明する。2日は市内に来られる方が多い割にシャトルバスが少なかったため、ものすごく不満を持っていたと思われ、その逆風の中での200名からアンケートをとった。その中でびっくりしたのは、高知の観光に「大変満足」「満足」が90%を超えており、その内訳は、第一位が圧倒的に「高知の人」、第二位は「食」と、他の港とは違う結果だったと思っている。高知の商店街はいかがでしたかという質問に対して「大変満足」と「満足」で99%。これは異常な数字。街中で少し困ってマップを広げていたらすぐに寄ってきてくれて道案内をしてくれたとか、ものすごく親切だったとか、街の方がWELCOMEというのがすごく伝わったとか、そういったところで評価が高かった。こういう他との違い、おせっかい、お接待という部分に関してはかなり高知は前に出ていると感じている。不満の中にクレジットが使えなかったというものもあったが、ごく少数派であった。今回は日本周遊だったので、事前に日本円に替えていたとか、岸壁で円に替えたとか、銀聯カードが使えないという情報が事前にあったとかいうことがあると思う。確かに、銀聯カードが使えなかったという声はある。

免税店については、免税店になっているかなっていないかの差は非常に大きいようだ。そこそこの規模の店舗は一気に免税店にしようという動きが出ているので、一括カウンター形式で小さな個店を結ぶ部分と、それぞれの個店で取り組むといった両面で進めようとしている。

<事務局>

船の寄港は年ごとに波があるものなので、今後国際観光をどんどん広げていくためには、高知に泊まっていただくお客様を引っ張ってることが一番大事。船で来た方は買い物をされてそのまま出て行くので、宿泊や飲食は限られてくる。これからは宿泊を伸ばしていくことが一番大事だと考えている。そういった意味では、高松や松山など四国内の他の市と連携しながら、ある程度コースを作った中で来ていただく体制作りが必要であると考えている。そういった行政としてできる部分もあるが、受入れていただく場合には、お店の方や旅館・ホテルの皆様方などに心からのおもてなしをしていただく必要がある。そういったことによってリピーターが生まれてくるので、行政と民間の方々と一緒になってこれからも考えていきたい。

高知市としても、タブレット以外にも9月議会の補正予算で、海外の方を17万人受入れた旅館の方をお迎えしての研修や講座もやっていこうと考えている。いろいろなところで皆様方と連携して進めて

いきたいので、お力添えをよろしくお願ひしたい。

(委員長)

国際観光も国内観光も観光資源をまずどうするか、観光資源の磨き上げという点は基本的には一緒だと思う。その上で国際観光でさらにそれに付加する魅力はどうか、それを海外へどう発信するか、そのためのインフラ整備はどうか。(外国のクレジットカードで円がA T Mから引き出せないとか、そういった国際観光のための整備をどうするかといったことが課題としてある。そのように足りない物を整備していく努力はやっていかないといけない。

もう一つは、四国ツーリズム創造機構などで、高知だけでなく四国島内で提携して四国へという形での取り組みもさらに必要。

#### 4 その他

事務局から、次回は2月に最後のフォローアップ委員会を開催する旨の説明があった。

#### 5 閉会